



ベッドサイド端末とICカードを利用し 安心して快適な療養環境を追求

病棟のベッドサイド端末では、タッチパネルで好きな食事メニューを選ぶことができる*

急性期に特化した医療を提供している同院では、医療機器の整備に努めると同時に、患者の快適性に配慮した療養環境の充実にも力を注いでいる。そのひとつが、ベッドサイド端末の導入だ。

「少しでも快適に過ごしていただきたい」との思いから導入しました。この端末により患者さんは、ベッドサイドでテレビや映画の鑑賞をはじめ、病院情報や診療スケジュールの確認ができます。また、食事制限を受けていない方には、端末を介して、あらかじめ用意したメニューのなかから好きな料理を選べるようにもなっています（伊藤名誉院長）

ベッドサイド端末は入院病棟のほか、血液浄化療法室にも設置。患者はテレビや映画を楽しみながら血液透析治療が受けられる。

もうひとつが、職員、入院患者、面会者に配布されるIC

カードである。このICカードは現金をチャージすることで電子マネーとして利用することが可能。レストランや売店、ベッドサイド端末、冷蔵庫、コインランドリーなどの利用をカード1枚で済ませられる。

伊藤名誉院長は、「ICカードによるキャッシュレス化は、患者さんからはもちろん、職員からも『食事を取りに行かなくて済む』と評判は上々です」と胸を張る。

このICカードで特筆すべきは、電子マネー機能に加え、電子キーとしての機能も付加されていること。同院は、所有者ごとにセキュリティレベルを設定し、入室できる病棟や部屋に制限をかけている。これにより不審者や部外者の侵入を防ぎ、セキュリティ保持の観点から、患者の快適な入院生活や職員が安心して働ける職場環境を確保することができている。また、電子カルテのアクセスもICカードで職種により制限をかけている。

このベッドサイド端末とICカード課金システムの導入・管理・運営を担当しているのは、株式会社パースジャパン。気になるコストであるが、ベッドサイド端末と



→職員レストランでは、ICカードを使い、キャッシュレスで食事を楽しめる

ICカード課金システムについては、同社がレンタルする形で初期費用をかけずに導入し、ICカードのみ病院の購入となる。ベッドサイド端末などの利用料金は同社が管理し、メンテナンスも常駐する同社スタッフが行うため、病院はコストと手間をほとんどかけずにセキュリティとアメニティーの充実を実現できるといわけだ。

コスト削減が命題となるなか、費用を抑えて患者サービスの実現を図れる同社の取り組みは、厳しい経営を強いられる医療機関にとって強い味方になるはずだ。

商品お問い合わせ

■株式会社パースジャパン
電話：03-3814-6838
<http://www.persjapan.co.jp/>

撮影＝井上裕康 *：写真提供＝東京女子医科大学 八千代医療センター